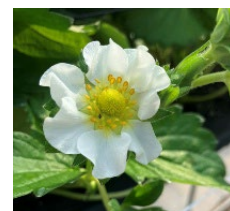




§1 イチゴ育苗期の病害虫について

今回はイチゴ栽培の中でも特に育苗の時期にスポットを当て、注意すべき病害虫と防除方法についてご案内します。



「育苗期に気を付けたい病気」

＜うどんこ病＞

発病条件：20℃前後で乾燥・多湿、樹勢が低下すると発病しやすい。

特徴：名前の通り、うどん粉をかけたような白いカビが発生。

おすすめ薬剤：ジーファインフロアブル、サンリット水和剤、サンヨール乳剤、ラリー乳剤

＜炭疽病＞

発病条件：28℃前後で高温多湿を好む。水の跳ね返りにより土壤に潜伏している菌が飛散して伝染する。

親株から苗へ伝染することがある。

特徴：葉や葉柄に黒っぽい病斑が表れる場合と、病斑が見られずにクラウン部から枯死する場合があります。

おすすめ薬剤：ドキリンフロアブル、デランフロアブル、ベンレート水和剤、サンリット水和剤、アントラコール顆粒水和剤、ニマイバー水和剤

＜疫病＞

発病条件：高温多湿を好み、病原菌は土壤中や被害組織に潜伏、水媒伝染(水の中を移動)をする。

特徴：葉に黒褐色～暗褐色、円形～不整形の病斑を形成し、葉以外に根やクラウン部分にも発生します。

おすすめ薬剤：リドミルゴールド MZ 水和剤

散布時期	薬剤名	成分	対象病害虫
5～6 月	ドキリンフロアブル	M1 有機銅	炭疽病
	ジーファインフロアブル	NC 炭酸水素ナトリウム M1 無水硫酸銅	うどんこ病・軟腐病
	サンヨール乳剤	M1 DBEDC	うどんこ病・灰色かび病・アブラムシ・ハダニ
	デランフロアブル	M9 ジチアノン	炭疽病
	サンリット水和剤	3 シメコナゾール	炭疽病・うどんこ病
	プレオフロアブル	UN ヒリタリル	オオタバコガ・ハスモンヨトウ
	ロディ乳剤	3A フェンプロパトリン	ハダニ・アブラムシ
	サフオイル	- 調合油	アブラムシ・ハダニ・コナジラミ・うどんこ病
	モスピラン顆粒水和剤	4A アセタミプリド	アブラムシ・アザミウマ・コナジラミ
	ベンレート水和剤(かん注)	B1 ヘノミル	炭疽病・萎黄病
7～8 月	ドキリンフロアブル	M1 有機銅	炭疽病
	アントラコール顆粒水和剤	M3 プロビネブ	炭疽病
	デランフロアブル	M9 ジチアノン	炭疽病
	リドミルゴールド MZ 水和剤	M3 マンセブ 4 メタラキシル M	疫病
	プレオフロアブル	UN ヒリタリル	オオタバコガ・ハスモンヨトウ
	コテツフロアブル	13 クロルフェナビル	ダニ・アザミウマ・ハスモンヨトウ
	フェニックス顆粒水和剤	28 フルヘンジアミド	オオタバコガ・ハスモンヨトウ
	プレバソソフロアブル	28 クロラントラニリプロール	ハスモンヨトウ
	コルト顆粒水和剤	9B ビリフルキナゾン	アブラムシ・コナジラミ
	モスピラン顆粒水和剤	4A アセタミプリド	アブラムシ・アザミウマ・コナジラミ

「育苗期に気を付けたい害虫：発生しやすい条件はいずれも高温乾燥

＜ハダニ類＞：吸汁加害し、被害部が「かすり状」になる。

世代交代が早く薬剤への耐性が付きやすく、同系統の薬剤の連用は避ける

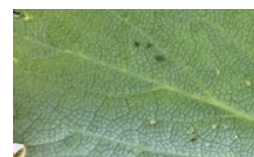
おすすめ薬剤：サフオイル、ロディ乳剤、コテツフロアブル

＜アブラムシ類＞：吸汁加害による生育不良を起こす。排泄物にすす病が発生して黒く汚れる。

おすすめ薬剤：モスピラン顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤、モベントフロアブル

ハスモンヨトウ：葉を食害、大きな穴を開ける

おすすめ薬剤：プレオフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、プレバソソフロアブル



「防除のために共通していること」

・こまめに観察して発生を見逃さない、予防と早期防除が重要

・同系統の薬剤が連続しないようにローテーション散布を心がける(RAC コード確認)

・圃場周辺の除草をすることで害虫の増殖や飛び込みを抑える。

発生予察情報などを参考に適期防除を行い、病害虫を増やさない工夫が重要です。

農薬使用方法や混用事例など詳細については弊社営業担当までお問い合わせください。

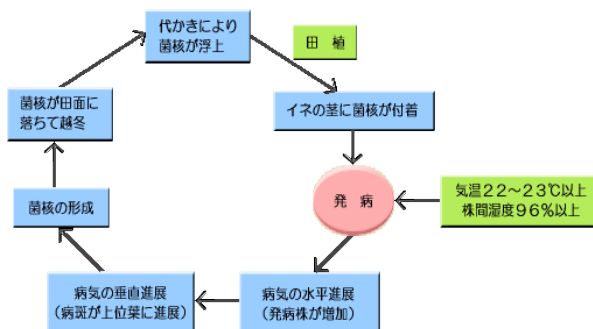
§2 イネ 紋枯れ病について

<紋枯れ病とは？>

糸状菌の一種で、担子(たんし)菌：タナテフォルクス・クメリス由来で、イネ等に発生する病気です。前年の被害株や畦畔などの羅病雑草に形成された菌核が越冬し、第一次感染源となります。紋枯病菌の菌核は、代掻き時に水面に浮上し、イネの株元に漂着します。気温が22℃を超え、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長し、葉鞘内に侵入し、発病に至ります。初めは、暗緑色の水浸状の病斑が発生し、のちに周辺が褐色、中心部は灰白色の楕円形の病斑となります。病斑から菌糸が伸長し、分けつ茎や隣接したイネ株に伝染し、葉鞘を伝って上方に伸びて、新しい病斑を作りながら蔓延します。本病にかかると、下葉からしだいに枯れあがり、イネの茎が弱くなり倒伏しやすくなります。高温、多湿、多窒素、早期栽培は発病を助長します。

<防除のポイント>

初期発生が見られたら、幼穂形成期から入熟期にかけて薬剤散布を行う。
常発地では育苗箱施薬も活用する。
窒素肥料の多用を避け、過繁茂にならないようにする。
多発田では、代掻き時に浮遊するゴミに紋枯れ病菌が混入しているので、畦畔沿いのごみは除去する。
冬場に畦畔の雑草を焼却処分する。



系統別紋枯れ病 薬剤一覧

品名	成分名	系統
モンガリット剤	シメコナゾール	EBI
モンカット剤	フルトラニル	散アミド系(呼吸阻害)
リンバー剤	フラメトビル	散アミド系(呼吸阻害)
バンタック剤	メブロニル	散アミド系(呼吸阻害)
アミスター剤	アゾキシストロビン	ストロビルリン系
オリブライト剤	メトミノストロビン	ストロビルリン系
バリダシン剤	バリダマイシン	抗生物質(トリハラーゼ阻害)
モンセレン剤	ベンシクロン	フェニル尿素系
モンガード剤	ジクロメジン	ジクロメジン

§3 「暑さ対策セミナー」の開催

5月26日(月)に、高山市の山正飛驒営業所において暑さ対策セミナーを開催しました。先月号でもお伝えしました、夏場の高温は年々厳しさを増しており作物の生育や作業従事者の労働環境に大きな影響を及ぼしています。また、労働安全衛生規則の改正により、事業者に対して熱中症対策が義務付けられることも決まっています。そのような背景を踏まえ、資材メーカー担当者様を講師に招き、農作物や作業する人を猛暑から守るための資材について説明会を行いました。

・遮熱タイプの天井用POフィルム

サンピエラ7クール：赤外線反射剤が含まれており、熱線を反射することでハウス内の気温上昇を抑える。

・遮熱性能を持つ遮光シート

ふあふあホワイトプラス：遮熱効果を持つ白色のネットタイプの遮光資材。遮光率は30・40・50・60%

・植物に高温乾燥への耐性を誘導する液体資材(希釈液をかん注または葉面散布)

サンコール：エタノール、クロレラエキス、もろみエキスを含む液体資材(肥料成分はなし)

※その他商品も取り扱っております。

・作業従事者を守るベスト

水冷服：凍結したペットボトルを使用して、モーターで冷水を循環させる。間欠モード運転がおすすめです。

クールベスト：26℃以下で自然に凍るPCM素材を使用したベスト バッテリーは使用せず約120分使用可能になります。

